病院図書室　13(1):40,1993

図書館員の四季

冬眠してはいられない

長野赤十字病院　上野　誠

一日の仕事に区切りをつけて家路につく頃、冬の星々が静かに満天にきらめく季節となった。冷え込んでくると、美しさは格別だ。しばらくは厳しい寒さと二人三脚、雪とのお付き合いもあるがなるべくなら星たちと出会いたい。

臨床に直結した図書室活動だけに冬眠したり、陸の孤島をきめこむわけにもいかない。ファクシミリという強い味方も登場し、大いに助けられている。利用者への資料提供・情報支援にあたり、これまでも各地の司書のみなさんにお世話になってきた。先ごろ所属している病院図書室研究会でも雑誌の『現行所在目録』を完成したところ、早速文献複写申込が寄せられてきた。待望されていたこの目録によって、会員のネットワークも進みそうだ。今後が楽しみである。

公共図書館員から病院図書室の「1人ライブラリアン」になって10年ほどになる。数年前から気がかりな存在だった学校図書館のことを知りたくて各地に出かけた。司書の配置をはじめ、学校図書館の充実を願う声に深く共感し、「人」がいない現実を一刻も放置できないことを教えられた。これからの時代を生きていく子どもたちにすぐれた学校図書館活動を贈ることは、おとなの責任であろうし、同じ仕事にある者としては深くかかわっていきたいと考えている。

身近かな市民の図書館のあり方を探ろうと、長野県内の司書の仲間たちと11月には「としょかんを語るつどい」を開いた。子どもと本との出会いをつくる集会行事の実演と講演の2部構成で、講師には前川恒雄さんを迎えた。この時の実演－パネルシアター・読み聞かせ・ストーリーテリング・歌い聞かせ・ペープサートなどについて利用者の看護婦と話しているうち、いっしょに実践することになった。楽しみがまたひとつ増えた。

図書室の近況

島根県立病院　後藤　久恵

当図書室は病歴室と併設になっており、職員1、嘱託(144時間)2の女性3人の職場です。平成4年11月半ばより、週40時間制推進のため土曜日は休室しています。

病図協入会当初は図書専任で、身軽さもあり研修会等にも参加しておりましたが、ここ何年かは病歴業務が主体となり、図書業務の方が兼務のようになってしまい、なかなか参加できなくて失礼しています。その代わり、仕事に行き詰まったり、困ったことが発生するたびに、会報、会誌を活用させていただいております。2年前にJOISを導入する際には会報に掲載された導入病院へのアンケート調査で状況がよくわかりたいへん助かりました。また、最近では患者図書室に関する資料の問い合わせに活用させていただき、徐々に実施病院が増えていることを知ることができました。

当図書室の利用者は私が入った当初はほとんどが医師でしたが、最近は看護婦、コ・メディカル、看護学生等利用者層が広がり、資料に対する要求も多様化しております。したがって、医学関係資料だけではなく、隣接する領域、一般誌の医学に関する記事等専門外の資料収集をすることも多くなり、苦慮することがあります。相互貸借のネットワークは以前に比べ、ずいぶんと改善され利用しやすくなりましたが、医学以外の領域とのネットワークが推進されたら良いのにと思います。

今、当院では平成11年をめどに新築移転が決定しており、新病院建設に向けてプラン作りが活発に行われています。新しい病院における図書室は職員だけでなく患者の利用も考慮し、また対外的には医療機関間のネットワーク、県立図書館等公立図書館との連携が課題になっています。ともあれ、新病院への期待と移転までの予算やスペース等のきびしい現実を思い合わせているこの頃です。